

各位

共同運賃加算社の理事の一員として、をむにやまわれぬ思いでこの一文を書いたためでした。今、立ち上りかねければ、大変なことになる。共同運賃に自社の存在を疑われる地方紙などによって急遽存続のときと考え、異常な事態の進行にストップをかけるべく毎朝に訴える次第です。

六月二十日の社員総会の議題を追加することの緊急を問う書面決議の書類が送られてきてました。その内容を熟読しました。石川社長が辞任するので、新理事選出を議題に追加したいというのです。五月二十三日の理事会では、今回の前人事部長の不祥事に対し、厳しい意見は出しましたが、社長の選任を求める発言はなかったし、重估委員会でも同様であったと仄聞しております。一件落着と安堵して歸郷に旅したのですが、翌日後に事態は急転しました。

なぜこうなるのか、疑問だらけです。加算社が運命を託す共同の社長の選出、後任選出が一片の紙切れで済ませられるのか。本来なら緊急連絡委員会、臨時理事会が招集され、よく事情を聞き、加算社すべてが納得できる対応策を決めるべきではないのか。それが、正副会長の合議のみでことを決し、われわれには懸って賛成しろといわんばかりの運び方です。はつきり言つと、今回の処理には手練き上の瑕疵があり、認めるわけにはいきません。

加算社と共同は運命共同体とよく言いますが、強大な全国紙に地方紙が対抗するには、共同の社長に強いリーダーシップが求められます。今回の候補者にはそれがあるのでしょうか。拙速に事を運ぶべきではありません。六月二十日には、後任選出を確保し、参議院選挙終了後に改めてじっくりと話し合つべきです。もし正副会長が方針を変えず、こり押しする場合には、一人の「異議なし」の発言に従うのではなく、書面投票による採決を求めましょう。そして、共同社長の人選を民主的で透明性のある方法で行いましょう。

理事の普羅、社員と販売店、そして会社の将来のために正しい行動をし、去しよう。のみ共運社を出せば、悔いを残さず済みます。

平成二十五年六月 桑士